

令和元年度 フォーレスト 事業報告

「たゆまず鍬をいれ 大地を耕す」

1 令和元年度期中職員異動状況

入職 合計 12名

介護職 7名 正規1名 嘱託2名 パート職4名

看護職 1名 正規1名

訓練職 1名 正規1名

ケアマネジャー 1名 正規1名

運転手 2名 パート2名

退職 合計 15名

介護職 12名 正規3名 嘱託4名 パート5名

ケアマネジャー 2名 正規2名

運転手 1名 嘱託1名

異動 合計 5名

ケアマネジャー 1名 正規 ころより異動

介護職 1名 正規 ともがきより異動

事務職 1名 嘱託 ともがきより異動

事務職 1名 正規 ナナーラへ異動

運転手 1名 パート ナナーラへ異動

出向 合計 1名

介護職 1名 パート 12月よりセントラルクリニックへ出向

育児休業 合計 1名

看護職 1名

2 人材育成と定着率の向上について

- 小林人材育成アドバイザーにて下記の通り、個人面談等実施して頂きました。

フォーレストの運営体制において軸となりうる管理責任者・デイ主任・入居主任による三者会議に出席頂き、事業運営・職員育成の実際等、アドバイスして頂きました。

通年をとおして、新卒者・中途入職者問わず、グループ研修及び個人面談を実施して頂き、「人を大切にする」事について具体的にお伝え頂きました。法人主催の全体研修会にはフォーレストとしてそれぞれ約40名以上が参加し、ひとつのテーマを皆で考える事ができました。

8月30日 法人全体研修会 「もしあなたが支援を受けるとしたら①」

11月1日 法人全体研修 「もしあなたが支援を受けるとしたら②」

又、当法人職員だけでなく期中2名の相談援助実習生が実習を行いました。それぞれ、障がい

福祉の概念等、面談等を通じて指導頂きました。

- 地域ケア研究所による、キャリア段位に基づく介護技法の実践講習を継続しています。
3名の主任及び5名のリーダーによって、それぞれ合計36時間ずつ実践講習に参加しています。さらに12月・1月には、入室から移乗までの介護について、主任を中心としたAチームが習熟度テストを実施しております。実際に現場で介護を直接指導していく事となるこれらの職員が、一緒に介護実践を学び、指導のポイントまでを共有する事ができました。
又、同研究会にて講義頂いた研修では、アウトカム評価と取り組むべきケアの方向性を教示頂きました。

4月15日 法人全体研修会 「2018年同時報酬改定の検証と今後の方向と次期改訂対策
(アウトカム評価) 標準化に向けたキャリア段位制度の活用」

6月10日 法人全体研修会 「振り返り 2018年同時報酬改定の検証と今後の方向と次期改訂対策
(アウトカム評価) 標準化に向けたキャリア段位制度の活用」

- 期中、実務者研修 4名 初任者研修 2名が修了となりました。
実務者研修修了者 4名は、本年度の介護福祉士国家試験受験を申込しています。
当施設は働きながらでも、学ぶことができるという環境を整え、この方たちにつづく方々にも、それを実感して頂いていると思えます。
令和2年3月31日 実務者研修修了者の内、1名が介護福祉士試験合格をいたしました。

- 実習受入れ

上田養護学校 現場実習 実習生 1名 受入

日本福祉大学 社会学部社会福祉学科(通信) 実習生 1名 受入

高崎福祉専門学校 社会福祉士養成コース(通信) 実習生 1名 受入

法人人材育成アドバイザーによる個別講義も実施され、教育機能としての施設の役割を認識させて頂きました。尚、上田養護学校 実習生は令和2年度 新卒職員として正規採用されています。

- マスターカレッジ講師 8月・9月及び12月の3回開講された初任者研修において、法人内他事業所職員とともに、柏原係長・古田係長・岩佐にて研修講師を受任しています。一日あたり5時間程の講義となりますが、講師自身も人に伝える事で知識や経験を、自らのものとする機会ともなりました。又、当該コース受講生より採用された職員も法人内で現在も多く活躍されています。

- 10月29日



法人全体研修 「労働時間の基礎知識」 講師 特定社会保険労務士 木島 好禅 氏
国が働き方改革を推進し、労務管理についてより、正確な知識に基づいた判断が必要となります。今回は、特に労使間で誤解を生じやすい労働時間について講義を受けました。

3 第8期介護保険事業計画にむけて

事業運営の軸は、介護保険事業におきながらも社会福祉法人としての役割を全うすべきものと考え、実践してまいりました。

ハンディキャップをもちながら就労されている方、経済的事由等から生活の継続が困難となっている方等、他関係機関と支援体制を確認しながら、就労を継続されている方が現在5名所属されています。「人にやさしく」「人を疎外しない」という方針の元に、現場担当者をはじめ就労継続のための支援をしています。勤務の配慮、個別面談等の他にも、経済的に困窮している方には、食材を寄与する等、介護保険事業として利用者の方の支援のみならず、職員に対しても支援を継続しています。

従来型特養として、基本報酬単価及び居住費がユニット型特養に比べ、それぞれ約12%程低く設定されておりますが、負担限度額割合3段階以下が6割をしめるフォーレストにおいては利用者の平均所得からも利用しやすいといえます。

上小地域（上田市・東御市・青木村）には現在21施設がありますが、従来型特養はフォーレストを含め10施設となります。今後も従来型特養のメリットを最大限活かし、地域のニーズに添えていきたいと考えます。

小規模多機能型居宅介護事業所 和光が、年度内において開所より3年間を経過しました。医療機関（セントラルクリニック）の協力の元、在宅生活を重層的に支える事業として、地域の方々に認識されています。職員についても、通い・泊り・訪問に従事する事で、フットワークが良く、利用者の方にとって最適な支援を柔軟に提供しています。又、時には特養やデイサービス等へも従事し、「法人一本化」という法人全体の方針を体現しています。

今後、ともがきの小規模多機能型事業/住宅型有料老人ホームへの転換においても、当事業所で培った経験がつながるような事業実績となっております。

法人全体による合宿会議に主任等を中心に参加し、現状・課題、今後について介護部門として共有を図る事ができました。

8月24日・25日 法人合宿会議

2月20日・21日 法人合宿会議

4 通所介護（デイサービス）の稼働率アップについて

下半期以降、利用者延数は低下しましたが、さんらいずホールからの職員が一時デイサービスにて就業して頂き、和光からも職員が異動し、法人一本化の中で協力して頂いた結果、増収となりました。個別機能訓練については、作業療法士が1名採用となり、人員の強化が図られました。柔道整復師・看護職員に加え、専門職である作業療法士が加わった事で訓練メニューの工夫等が

図られました。当期中は、すぐに訓練実数に反映する事はかないませんでした。現在も法人内には、理学療法士・作業療法士が在籍しており、今後アウトカム評価（実際に行った結果についての評価）が問われる中では訓練メニューADL 評価等についても協力をえていきたいと思いません。

認知症加算については平成31年4月期 22名/一般61名~令和2年3月期 19名/一般57名 の加算算定件数となっています。期中、生活相談員2名が認知症介護実践者研修を修了しました。日常生活自立度Ⅲ（※日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心にみられ介護を必要とする）以上の方が、利用者総数の内、30%以上となっており、認知症の方を受け入れる事業所として、関係者に認識されています。

5 地域貢献及び地域協働について

- 4月13日（土） 常田区 いきいきサロン「お花見」
GH利用者 3名 和光利用者 3名 職員 4名 参加
- 4月14日（日） 加沢区 いきいきサロン「おやきづくり」
本部 2名 ころこ 3名 職員 10名 参加
- 5月19日（日） 常田区 こども相撲
GH利用者 2名 和光利用者 2名 本部 1名 職員 10名 参加
- 5月25日（土） グリーンパーク清掃
職員11名 参加
- 6月29日（土） 北御牧中学校 中学生6名に福祉の仕事について講義
職員1名 参加
- 6月29日（土） みんなちがってみんないいコンサート（東御市民間介護・福祉事業所連絡会）
GH利用者 8名 和光利用者 3名 本部 2名 職員 9名 参加
- 7月18日（木） 法話会
入居利用者 45名 GH利用者 8名 家族 5名 職員 35名 参加
- 9月 1日（日） 常田区防災訓練
職員 9名 参加
- 9月 8日（日） 常田区運動会
GH利用者 1名 職員 11名 参加
- 9月14日（土） 敬老会
入居利用者 58名 GH利用者 9名 デイ利用者 42名
家族 26名 地域関係者 9名 参加
- 9月28日（土） ボランティア感謝祭
入居利用者 3名 GH利用者 9名 デイ利用者 26名 参加
- 10月21日（月） 社会福祉法人 上田明照会 職員交流研修会 16名 参加
- 11月10日（日） 常田区いきいきサロン 区民 26名 職員 17名 参加



12月21日（土）和光クリスマス会 地域向け屋台提供

2月12日（水）東京都 AZセンター岩田氏視察受入（東御市民間介護福祉事業所連絡会）
本部 2名 職員 1名 参加